

小中校 広がる「がん教育」

昨年度室蘭市立の半数以上実施

健康への意識を高めようと室蘭市内の小中学校で、「がん教育」が徐々に広がっている。2013年度に始まり、18年度は市立小中全20校の半数以上が実施。市内の総合病院長が講師を務めることもある。児童生徒を通して、保護者に関心を高めてもらう狙いもある。

(田中雅久)

「がんは特別な病気ではない」。7月23日、港北中の全校生徒約170人を前に、製鉄記念室蘭病院の前田征洋院長が強調した。生涯でがんになる割合は2人に1人であると説明すると、生徒たちは真剣な表情になった。

がんは日本人の死因1位で、喫煙やウイルスなどが原因で発症する。3年の牛坂来海さん(15)は「両親がたばこを吸っているのので、家に帰ったらやめるように伝えたい」と話した。がんに関する正しい知識

がんに関する正しい知識

がんを
防ごう

小中学生を対象とした教育は、保護者に関心を高めてもらう狙いもある。市は16年度から、胃がんの最大の原因とされるピロリ菌検査を中学2年の尿検査に合わせて任意で実施。大人向け検査の助成対象は昨年度まで50〜65歳だったが、本

病院長ら講師 保護者の関心高める狙いも

年度から中学生の保護者が多い40代も加えた。

前田院長は「ぜひ家族にも検査を勧めてみてほしい」と生徒に呼び掛けた。がんの治療法は年々進化。予防には、喫煙や肥満、

過度の飲酒、塩分の取り過ぎなど生活習慣の改善も大切とされる。前田院長は予防のために、早いうちから教育で意識付けをすることが大事だ」としている。

港北中で行われたがん教育。製鉄記念室蘭病院の前田征洋院長(左)が講師を務めた。7月23日



質問です
生涯で、「がん」になるのは
何人に1人の割合?
A 100人に1人
B 10人に1人
C 5人に1人
D 2人に1人